



加茂川の異変

久しぶりに、京都の四条大橋を渡りました。西側の川岸には、川床。河原に座るカップル。祇園・先斗町と並んで、四条大橋から加茂川（鴨川）の上流を眺める風景は、京都らしさあふれる風景です。それに憧れて、京都での学生生活を選択した人もいます。京都で学生生活を送り、河原に、甘酸っぱい思い出をお持ちの方も多いかと思います。

河原にたたずむカップルには、「等距離を保つ」伝統？がありました。

筆者の学生時代から、つい最近までそれが続いていたはずですが（それを卒論にまとめた学生の話が、新聞記事になったこともあります）。夕

方が近くなると、ポツン、ポツンと河原にカップルが座り、その数が増えるにつれて、カップル同士が距離を調整して、常に等距離に座るという現象です。この現象は、眺める人にも京都らしい光景と映っていました。

ところが、河原の光景が一変していました。カップルだけでなく、一人で座る人、数人で座る人と、人数がまちまち。座っている人同士の距離もばらばら。「等距離の原則」が完全に崩壊しています。

しばらく河原を眺めていると、座っている人たちに、外国の人が含まれていることに気づきました。といっても、日本人と同じようにたたずみ、雑談をしておられます。ちょっと見ただけでは、それが外国人だとは思いま



▲「等距離の原則」が崩壊した加茂川の風景

せん。加茂川の風景にすっかり溶け込んでおられます。

そういえば、和服を着て、町歩きをするのは京都の楽しみ方のひとつ。東本願寺で出会ったヨーロッパの男性は、西郷隆盛の銅像にそっくりでした。「着物姿が似合いすぎ!」と突っ込みたくなるような見事なお姿。ご本人も楽しんでおられたでしょうし、こちらも楽しめました。

異文化と接したとき、最初には違和感を感じ、その後、お互いが歩み寄って快適な接し方を発見する。そんな作業が、日本の各地で進んでいるのでしょうか。アジアの方々との接点の持ち方、欧米の方々との接点の持ち方、お互いがそのノウハウを発見し蓄積していく。その作業が加茂川でどう進んでいくのか。京都に行く楽しみが、ひとつ増えたようです。（MBO 実践支援センター代表 大阪商業大学特任教授）

